

下米塚村	五六	五八〇・七	五七	四一九	九六	四四二	二〇五	一三七
両堂村	一二	一二四・七	一三	八八	一二	九二	三九	五三
西後庵新田 (西後庵)	八	一九三・一	八	四五	一九	一一五	五九	五六
上荒井村	二一	二三〇・八	二〇	四五	六	一九	九	一〇
北会津村分	六五	九二五・七	六一	三八六	九五	一三五	七一	六四
大島村	小計	二〇	三七八	四五	一九	四六三	二二八	二三五
下小松村	三五二	六一	小計	六八	小計	三〇七	一四五	一六二
(小松)	九八九	三七八	小計	二二二	小計	三〇七	一四五	一六二
三本松村	九八九	〇〇〇	小計	一三六六	小計	七、七三	三、四五	三、八六
計								

いらしいから、近世の会津若松市が城下町としての繁栄をみせたようにはいかなかった。

また山麓の寺院などにみられた、門前町を形成するほどの信仰の基地もなかった。会津坂下町・会津高田町のように、谷の口にあつて、山と平野の物資の交易市场のような特色は勿論そなえなかった。

それだけに、この古くよりの純農村としての開発度をみたいが、このような農村にはそれを対比するだけの資料を得難い。漸く寛文五年(一六六五)の人口・竈数の統計が部落別に得られたが、まだ旧橋爪組に関するものが発見されないで、現在との対比、繁栄度をみることは容易でない。

一応旧中荒井組二十数個部落の戸数を集計してみると八〇八となる。竈数は一、〇〇一に達するが、中荒井村下荒井村などにその差の大きいのは、やはり移入人口が多く、非農家や兼業農家が古くから多かったことを示すようである。人口は四、三三九、一戸平均は五・四人ほどになり、家族構成はあまり大でない。これを竈数で除すと、約四・三人となり、農村として少し低い観がある。やはり蔬菜栽培などを古くよりしており、城下町の郊